

平成 27 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【福井県福井市】

実施報告書 (概要版)



 **内閣府**
Cabinet Office, Government of Japan

11月5日は津波防災の日



しんじょう君



ちっちゃいおっさん



ふなっしー



くまモン



きいちゃん

津波防災ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

福井県福井市について

福井市（ふくいし）は、福井県北部に位置しており、九頭竜、足羽、日野の三大河川の扇状地である福井平野に発展してきました。

人口は約266,701人（平成27年12月1日現在）、総面積約536.41km²で、これまで福井大空襲、福井地震と大災厄に二度見舞われながらも当時の倍以上の人口にまで復興したことから、不死鳥を街のシンボルとしています。



出典：国土地理院

訓練概要

■訓練想定：平成27年11月8日（日）午前8時00分、福井県嶺北北部沖を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生、福井市では最大震度7を観測し、家屋の倒壊や土砂崩れ、各河川の堤防崩壊など多くの被害が認められ、また、福井県域に大津波警報が発令された。特に、市沿岸部の越廼地区からの被害情報が多く寄せられており、本市の防災力だけでは対応が困難なため、防災関係機関に対し応援を要請した。

■実施日時：平成27年11月8日（日）8：00～11：00

シェイクアウト訓練	8：00～ 8：03
津波避難訓練	8：05～ 8：25
倒壊建物救出救助訓練	9：25～ 9：40
住民体験訓練・展示コーナー・避難所開設運営訓練	9：40～10：40
津波漂流者救出救助訓練	10：40～10：55

■主 催：内閣府、福井市

■参加者数：2, 328名（※関係機関含む）

■参加機関：近畿地方整備局福井河川国道事務所、福井海上保安署、福井地方気象台、自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第372施設中隊、福井県防災航空事務所、福井南警察署、敦賀警察署、福井県警察本部警備部機動隊、福井市消防局、福井市消防団、日本放送協会福井放送局、越廼漁業協同組合、福井市防犯隊、日本赤十字社福井県支部、福井市赤十字奉仕団越廼分団、越廼地区女性部、福井西商工会越廼支所、福井市災害ボランティアセンター連絡会、こしの渚苑、福井新聞、日刊県民福井、越廼中学校、越廼小学校、曙保育園、4地区自主防災組織連絡協議会、4地区自治会連合会、4地区公民館

当日の訓練内容

08:00～ シェイクアウト訓練・津波避難訓練

震度7の大地震が発生したことを想定し、市沿岸部を対象にしたシェイクアウト訓練を実施した。その後、住民は最寄りの津波避難場所へ避難を実施した。津波避難場所では、市職員と自治会長等が協力して、避難者数の確認を行った。

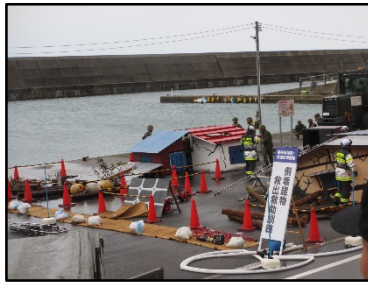
▼津波避難訓練の様子（左：越廼地区、右：鷹巣地区）



9:10～ 倒壊建物救出救助訓練

消防職員・団員と自衛隊員で倒壊建物の下敷きになった負傷者を協力して救出救助する訓練を実施した。災害に対する防災体制の連携、強化を図った。

▼倒壊建物救出救助訓練の様子



9:40～ 住民体験訓練・展示コーナー・避難所開設運営訓練

メイン会場である茱崎漁港周辺にて、炊き出し訓練等10種の住民体験訓練、パネル展示や津波防災イベント等の展示コーナー、仮設トイレや間仕切りの設営等の避難所開設運営訓練を実施し、地震・津波防災に関する意識の高揚を図った。

▼炊き出し訓練の様子



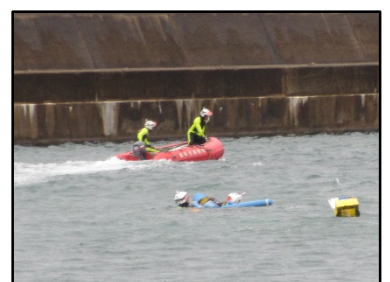
▼津波避難ポーズ



10:40～ 津波漂流者救出救助訓練

防災ヘリ等を用いて津波により被災した漂流者を消防職員が救出・救助する津波漂流者救出救助訓練を実施した。

▼津波漂流者救出救助訓練

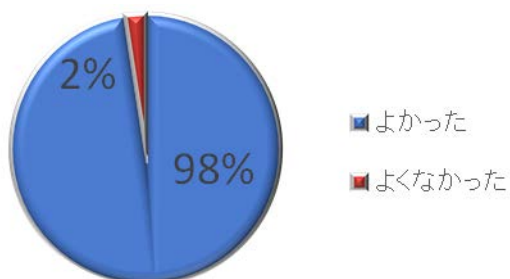


アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：1,560人）

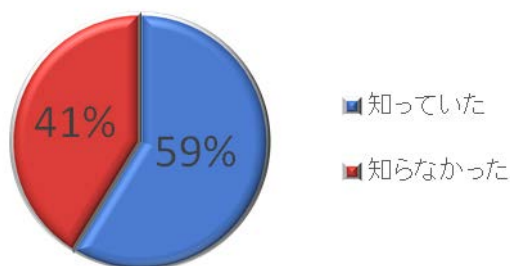
問 訓練に参加して、どう思いましたか？

（回答数：1,465人）



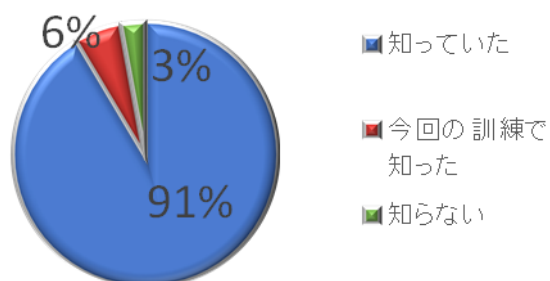
問 11月5日が「津波防災の日」であることを

知っていますか？（回答数：1,521人）



問 自宅からの津波避難経路を

知っていますか？（回答数：1,514人）



訓練の評価

訓練当日は雨や強風にも見舞われたが、沿岸部4地区（越廼、国見、鷹巣、棗）、防災関係機関等を含め合計2,328名が訓練に参加した。沿岸部4地区における本訓練では、次のような点が評価できる。

○福井市では津波対策に特化した訓練は毎年実施してはならず、本訓練が津波に関する知識を習得する良い機会となった。

○荒天の中、地域住民、自主防災組織、防災関係者が一体となって、避難訓練を実施し、知識の習得とともに意識の高揚を図れた点が評価できる。また、多くの機関、団体との連携、各地区への事前説明会などを含め総合的な防災体制を確立できた点も評価できる。

一方で、次のような課題が指摘された。

- 高齢者等の避難行動要支援者は、津波避難に時間がかかる可能性があるため、今後は避難支援のあり方を検証する訓練が必要である。
- 今回の訓練はより多くの人々の参加を見込んで休日に開催したが、街なかの人々の生活が大きく変わる平日の訓練も今後必要である。
- 訓練では防災無線を活用して避難の呼びかけを行ったが、屋内では聞き取りにくい場合があり、地震の際に大きな揺れが収まったら直ちに高台へ避難する啓発をしていく必要がある。